

YAMAICHI MAGAZINE Vol.3

働き方改革
×
オフィス環境

働き方改革とは？

「働き方改革」とは、労働者の働き方をよりよい方向に改善しようという取り組みのことです。具体的には、残業時間の削減・非正規雇用の格差改善・テレワークやフレックスタイム制などの多様な働き方の実現などのことをいいます。



働き方改革のカギはオフィス空間？

働き方改革を進めるうえで、企業のルールや労働条件の改善以外にも、社員の満足度を高めることが求められています。仕事を効率よく進めることができる環境があれば、生産性を上げ、労働時間を短縮することができます。よって、働き方改革の一環として、社員一人ひとりにとって働きやすいオフィスを作ることは重要なカギなのです。

具体的な見直しポイントとは？

1 業務内容にあわせたレイアウトに

オフィスのレイアウトは社員同士のコミュニケーション設計や、モチベーション、業務効率を左右する重要なポイントです。最適なオフィスレイアウトは、業種や部署の人数によって異なる為、どのようなスタイルが自社に合っているのかを検討しましょう。

2 オフィスの照明に気を配る

オフィスの照明は、社員の仕事のしやすさ、空間の雰囲気づくりに大きく影響しています。執務スペースには、至徳明るい「昼光色」、リフレッシュスペースは暖かい色味の「電球色」を用いるなど、状況やスペースによって、照明を使い分けるとよいでしょう。

3 オフィス家具にこだわるを

1日の大半をオフィス空間で過ごすデスクワークが中心の職種、オフィスの滞在時間が短く外出が多い営業職など、様々な働き方があり、働き方にあわせて求められる機能やサイズ感は多種多様です。オフィス家具を選ぶ際は、それぞれの働き方に合った、最適なものを選びましょう。

快適なオフィス環境づくりのポイント ～レイアウト編～

社内でのほとんどの業務は、個々のデスクで行います。よって、デスクのレイアウトは、効率よく仕事をするにあたり重要なポイントとなります。日々の業務内容や、社員同士の連携を考慮した、オフィスレイアウトを考えましょう。

1 島型（対向式）レイアウト

部署ごとにデスクを対向させて配置する最も一般的なレイアウトです。まとまったデスク配置のため、部署でコミュニケーションがとりやすいのが特徴。



2 フリーアドレス式レイアウト

社員一人ひとりが固定席をもたずに、業務内容などに応じて自由に席を選んで働くワークスタイル。オフィスの省スペース化や部署を越えたコミュニケーションの活性化を図ることができます。



3 背面对向式レイアウト

部署ごとにひとつのブースを作り、デスクを背中合わせにレイアウトします。他の人の視線を気にすることなく、集中して作業ができ、振り返れば部署でコミュニケーションをとれるのが特徴です。



4 ブース型レイアウト

デスク周りをパネルやパーティションで囲い、独立した空間を作るレイアウト。他の人の視線や、雑音を気にすることなく、業務に集中することができるのが特徴です。



快適なオフィス環境づくりのポイント ～スペース編～

1 個人作業集中スペース

基本の業務スペースとは別に、離れた場所に設置することで、他の人の話し声や、視線を遮ることができるため、集中して業務を行いたいときに便利といえるでしょう。



2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペースを設けることは、社員のストレスの軽減につながり、仕事のオン／オフの切り替えができることで、仕事にメリハリができ、作業の効率が上がることが期待されます。また、社員同士が気軽に会話できるので、コミュニケーションの活性化にもつながります。

3 会議・ミーティングスペース

部署内での簡単な打ち合わせから、会社経営に関わる大型な会議まで、企業におけるミーティングルームの存在は非常に重要なものです。用途に合わせて、クローズな場とオープンな場をデザイン、設計することが大切です。

4 共創スペース

社内の部署を超えて、また社外の企業とオープンな空間で一緒に議論し、新しいものやアイデアを創造する「共創空間」が現在注目を集めています。多様なメンバーと協働でき、セミナーやイベントを実施できるスペースにもできます。

5 役員スペース

最近ではフラットな組織作りの為に、あえて他の社員と同じ執務室内に役員スペースを設けるケースが増えてきています。ただし、重要な情報を取り扱う場合や、社外の重要なお客様を招き入れる場合もあるので、機密性とオープン性のバランスが重要となります。

ヤマイチテクノも フリーアドレスを導入しました！

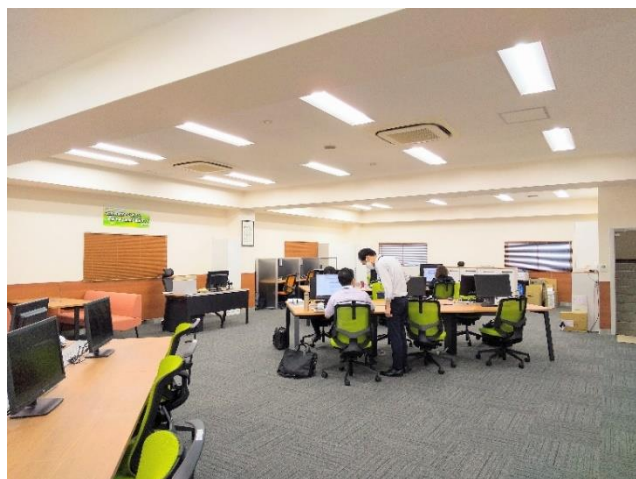


BEFORE



↑新レイアウト

AFTER



フリーアドレスのメリット

1 コミュニケーションの活性化

固定席がなくなることによって、部署や役職に関係なく会話をするきっかけが生まれます。普段からチームやプロジェクト外の社員とコミュニケーションを取っていれば、実際に業務で関わることになった際にも意思疎通がスムーズになり、情報も共有しやすくなります。同じプロジェクトに携わる者同士で席を近づければ、ちょっとした確認やミーティングが容易になり、これまで会議室に移動したり会議用の資料をそろえたりする時間が省け、業務の効率化が図れます。さらにはペーパーレスによるコストカットも期待できます。

2 スペースの有効活用、環境美化

営業が多く、日中はオフィスに人が少ないという会社こそフリーアドレスに向いています。社員全員分の席を用意しなくても、面積を最低限に抑えて省スペース化を図れます。社員の増減や部署異動などがあっても、重い荷物を抱えて席を替える手間をかけずにレイアウトの変更ができます。また固定席ではないので、基本的に私物はロッカーなどに収容することになります。デスク上に資料や収納がなくなるため、自然とオフィスのクリーン化に直結します。

3 イノベーションの創出

職種によっては、同じ場所で同じ部署のメンバーと接しているより、違う部署のメンバーとコミュニケーションを取った方が刺激が生まれます。他部署ならではの新しい意見を共有できたり、業務内容や課題を共有したりすることができるため、新しいアイデアが浮かぶことも期待できます。

POINT!



導入したものの、仲が良い社員同士が集まり、結局は固定席化してしまうことで生産性が下がるという例もあります。また、誰がどこにいるかが明確でない為、報連相がスムーズでなくなってしまうなどチーム内のコミュニケーション不足に不安を感じるケースもあります。フリーアドレスを成功させるには、導入時に想定される不安や課題に対して、事前に準備し、目的やルールを明確化しておくことが大切です。

COMING SOON!

ヤマイチテクノ バーチャルツアー



シャッターボタンを押すだけで、カメラの周囲360度を一瞬で撮影できる「360度カメラ RICOH THETA」手のひらサイズのコンパクトな大きさと、撮影時に手動でぐるぐる回す必要や、撮影後に写真を加工でつなぎ合わせる手間と時間も必要なしの優れモノ。

弊社でもフリーアドレス導入にあたり、「360度カメラ RICOH THETA」を利用して撮影した、こだわりのオフィス空間をホームページに公開予定です！
乞うご期待下さい！

箸休め



こんにちは。ヤマイチテクノ販売推進室の晒（サラシ）です😊
やっと収束したようにみえた新型コロナウイルスも、また各地で感染者数が拡大し、まだまだ自粛ムードが続いておりますね。
残暑続く中でのマスクもツライですが、しっかり感染予防対策していきましょう💡
では、今回も簡単レシピ紹介します🍴

とん平焼き



～ 材料 ～ (2人分)

豚バラ肉	100 g	
キャベツ	1～2枚	
卵	2個	
片栗粉	大さじ1/2	} A
水	大さじ1/2	
塩コショウ		
中濃ソース		
マヨネーズ		
鰹節、青のりなど		

～ 作り方 ～

豚肉は5センチ幅、キャベツは千切りにする。
ボウルに卵を入れ、Aを入れて混ぜ合わせる。
フライパンにサラダ油を入れ中火で熱し、豚肉、キャベツを塩コショウで炒め合わせたらいったん取り出す。
サラダ油を入れ熱したフライパンに溶き卵を流し入れ、半熟状になったら、炒めた豚肉とキャベツをのせて包む。
ソース、マヨネーズなどお好みでトッピングして完成 🎵

システムインテグレータ

YAMAICHI TECHNO